小児糖尿病キャンプ
ボランティアスタッフガイドライン

公益社団法人日本糖尿病協会

はじめに

小児糖尿病キャンプにスタッフとして参加されるみなさまへ

小児糖尿病キャンプにスタッフとしてご参加いただき、ありがとうございます。この機会に日本糖尿病協会の大切な事業のひとつである小児糖尿病キャンプについて、沿革や目的や実践についてさらに深く理解いただければ幸いです。キャンプ期間中はスタッフの一員として安全に楽しく過ごしてください。

ボランティアスタッフマニュアルの作成にあたり

小児糖尿病キャンプは多くのボランティアスタッフによって運営されています。現在、全国のキャンプに参加いただいているボランティアスタッフの割合は、参加者全体の８０％を占めています（2019 年度・全参加者 6,093 名　内スタッフ数 4,953 名　日本糖尿病協会資料による)。
それぞれのキャンプの企画・運営が円滑に行われ、キャンパーはじめ参加者全員の満足度を高めるために、スタッフ用のガイドラインを作成しました。
このガイドラインが、皆さんにとって少しでもお役に立つと幸いです。

作成者　　公益社団法人日本糖尿病協会
ペイシェントサポート委員会
作成日　2023 年６月
（Ver.6）

もくじ

■ボランティアスタッフガイドライン

１．小児糖尿病キャンプとは（沿革）　P4

２．ボランティアスタッフ共通ガイドライン　P6

３．キャンプ OB・OG スタッフガイドライン　P7

４．学生・一般スタッフガイドライン　P8

５．医療関連企業スタッフガイドライン　P9

６．医療スタッフガイドライン　P10

■小児糖尿病キャンプの安全管理の標準化

「安全で効果的なキャンプ運営のための基準」　P12

１．小児糖尿病キャンプとは(沿革)

日本では、1963 年（昭和 38 年）に東京で丸山博先生らによって初めて開催され、その後 1969 年に平田幸正先生が福岡、三村悟郎先生が熊本でと次々に開催されてきました。現在、公益社団法人日本糖尿病協会の支援のもと、全国およそ 50 ヶ所で、毎年夏を中心に実施されています。1989 年からは、公益財団法人日本財団の助成を受けています。

２．公益社団法人日本糖尿病協会について

小児糖尿病キャンプを支援している日本糖尿病協会について理解を深めてください。
日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、国民の糖尿病の予防、健康増進への調査研究を行うことなどを目的に、1961 年（昭和 36 年）に結成され、糖尿病のある人を中心に、医師、メディカルスタッフの皆さん等が参加する公益社団法人で、会員数は約１０万５千人です。

小児糖尿病キャンプは日本糖尿病協会が「小児糖尿病生活指導講習会」として行っている事業で、全国のキャンプの開催に多額の援助を行っています。キャンプの運営に携わる医療者の多くは日本糖尿病協会の会員です。これを機会に、キャンプに参加するみなさんも、日本糖尿病協会の会員になっていただきたいと思っています。
さらに日本糖尿病協会について詳しい情報は日本糖尿病協会ＨＰをご覧ください。
http://www.nittokyo.or.jp/

３．小児糖尿病キャンプの目的を確認しましょう

小児糖尿病キャンプは、参加者が糖尿病を正しく理解し、よりよい自己管理ができるようになり、自立していくことを主な目的としています。そのために、同じ糖尿病の仲間や医療者と数日をともに生活することによって、インスリン自己注射や血糖自己測定の手技を理解し、普段と異なる環境で適切な血糖管理を身につけたり、糖尿病のある人生を考えたりする機会を提供します。

キャンパー（キャンプに参加する糖尿病患児のことを、このガイドラインではキャンパーと略します）の大部分は１型糖尿病です。２型糖尿病など１型糖尿病以外の子どもも受け入れているキャンプもあります。

小学生から中学生（高校生までのところもあります）という年齢の異なる仲間が集まり、キャンプを卒業した OB・OG も参加して医療者などとともに集団生活を行うことで、糖尿病に対する正しい知識、新しい知識を得たり、仲間の生活の仕方からヒントを学んだり、

普段と異なる生活で起きるトラブルへの対処方法を学んだり、糖尿病であることを悲観することなく生きていけることを体験できる大変貴重な時間となっています。

また、キャンプを通じて知り合った仲間たちは、キャンパーにとってはかけがえのない仲間となりますし、社会人や大学生になったOB・OGなどの人生の先輩たちと生活し交流することで、人間として大きく成長する機会にもなりましょう。

キャンプの数日間だけの関係でなく、困ったときに相談しあえるような関係ができるようになることも期待されます。

４．子どもの糖尿病について理解を深めましょう

＜１型糖尿病＞

１型糖尿病はインスリンを合成・分泌する膵β細胞が何かの機序により破壊され、発症する糖尿病です。生命の維持のために、現在の医療では治療として一生涯インスリン治療が欠かせません。従って、生活のなかの様々な状況で、どのようにインスリン注射・CSII（持続皮下インスリン注入療法)をしていくか、その知識や情報はとても重要です。

なお、１型糖尿病は日本人の糖尿病の１割にも満たず、日本人の小児１型糖尿病の有病率は１万人あたり 1.5～2 人、発症率は１年間に 10 万人あたり 1.5～2 人といわれ、日本は世界的に見ても発症率、有病率とも、低い国といえます。

先にも述べた通り、キャンパーの多くが、このタイプの糖尿病です。

＜2 型糖尿病＞

２型糖尿病は、膵臓からのインスリン分泌はまだありますがその量が十分でない（インスリン分泌不全）か、分泌されたインスリンが十分効かなくて（インスリン抵抗性）糖尿病を発症したものです。主に適切な食事療法と運動、薬の内服やインスリンで治療します。

わが国の糖尿病の 95%以上はこのタイプで、最も一般的な糖尿病と言えます。しかし、若い年代でも殊に肥満者で２型糖尿病が発症し、最近は患者数の増加があり、キャンパーの中にはこのタイプの糖尿病の方もいます。

５．スタッフとして自らの役割を理解しましょう

キャンプには、様々な目的や動機を持つ多職種のスタッフが参加しています。この冊子は、最初に共通ガイドラインを記載し、その後に２）キャンプＯＢ・ＯＧスタッフ、３）学生・一般スタッフ、４）医療関連企業スタッフ、５）医療スタッフの順に記載しています。まず共通ガイドラインを、その後自分に該当するガイドラインをじっくりと読んでいただき、さらに他のスタッフガイドラインにも目を通していただければ、キャンプに参加

するボランティアスタッフの役割が理解できると思います。

１）ボランティアスタッフ共通ガイドライン

ここではボランティアスタッフに共通することについてまとめていますので、職種に限らず目を通していただきますようお願いいたします。

＜ボランティアスタッフとして参加するにあたっての準備＞

① １型糖尿病ならびに２型糖尿病に関する知識の習得と小児糖尿病キャンプの内容を把握しましょう。各キャンプで、それぞれの実情に合わせた事前の勉強会などが通常行われていますので、必ず参加しておいてください。

② キャンパーひとりひとりの参加目的を把握しておきましょう。キャンパーたちは年齢、病歴、参加回数などが異なるため、参加目的が異なります。このことを把握するために事前に情報を得たり、キャンプ当日に本人や保護者から聞いておく必要があることをまとめておくとよいでしょう。

＜ボランティアスタッフの役割＞

① キャンプを運営、進行していくためのサポートを行う

② キャンパー及び参加スタッフが安全に過ごせるようにサポートを行う

③ キャンパーの参加目的を把握した上で、その目的が達成できるためのサポートを行う

＜キャンプ主催者がボランティアスタッフに望むこと＞

① キャンプのすべての責任は主催者にありますので、必要となりうる情報は主催者スタッフに報告してください。キャンプは一つのチームを組んで支えあっていますので、ちょっとした情報でも積極的に交換し、最善のことができるように協力しあいましょう。

② キャンプでの生活において、キャンパーの学校生活や家庭生活の一端を垣間見る事ができます。その中で気付いたひとつひとつのことが、糖尿病に関わる知識になり得ますので、キャンパーとの時間を大切にしていきましょう。

③ キャンプに関してわからないことや変更した方がよいと思う点は、キャンプ主催者スタッフと意見交換を十分に行いましょう。そして今後のキャンプをよりよくしていくための課題として捉えていきましょう。

④ 自分の自己紹介の時には、キャンパーに自分のことをよく知ってもらう必要があります。職種や参加目的などをわかりやすく伝え、キャンプに溶け込んでいきましょう。

２） キャンプＯＢ・ＯＧスタッフ　ガイドライン

＜キャンプＯＢ・ＯＧとは＞

キャンプＯＢ・ＯＧとは、小児期に１型糖尿病を発症して小児糖尿病キャンプにキャンパーとして参加した経験のある、現在は高校生以上のスタッフのことです。（キャンプによっては高校生がキャンパーである場合もあります）キャンプＯＢ・ＯＧは、キャンプの受講者ではなく、キャンプを運営するスタッフの一人として活動することになります。

＜キャンプＯＢ・ＯＧスタッフの役割＞

① キャンプを他のスタッフとともに運営、進行していく
② キャンプの先輩、人生の先輩としてキャンパーに自分の経験などをアドバイスする
③ 今後のキャンプをさらによくするためにどうしたらよいか、一緒に考える
④ 自分自身の糖尿病の知識を確認する機会として、情報交換を行う。

キャンプＯＢ・ＯＧはキャンパーの先輩にあたり、同じようなことを思い、体験し、乗り越えてきた経験がありますので、参加したキャンパーのよきアドバイザーとなることができます。そのために、キャンパーと近づき過ぎず、離れ過ぎず、一定の距離感を持って関わることが求められます。

ただし、医療に関することは、スタッフとしての範囲を超えないように注意してください。不明な点や変更した方がよいと思う点はキャンプ主催者に報告し、情報交換や意見交換を十分に行って下さい。

「血糖値やヘモグロビンＡ１ｃは高くても大丈夫」、「ヘモグロビンＡ１ｃは□△％でも大丈夫」などといった個人的で無責任な考えを持った方は、キャンプＯＢ・ＯＧといえません。キャンプスタッフとして参加する責任と自覚を持ってください。

＜ＯＢ・ＯＧスタッフのキャンパーへの接し方＞

① キャンパーひとりひとりの名前を覚え、できるだけキャンパーの情報（参加目的、病歴、使っているインスリンの種類など）を把握してください。
② 自己紹介の時には、キャンパーに自分も１型糖尿病であることを伝え、キャンパーに自分も同じ病気を持つことを知ってもらいましょう。
③ 言葉遣いは、命令口調にならず友達感覚で話しましょう。ただし、体験談などを伝えたいときは相手の目を見て話し、友達感覚ではなく人生の先輩として毅然とした態度で伝えましょう。ただしそれは、あくまでも参考意見であることを忘れてはいけません。
④ キャンプ中の食事の際は、キャンパーとともに栄養素の分類、カロリー計算や炭水化量の計測などを一緒に行いましょう。

⑤　キャンパーが低血糖かなと思ったら、軽そうな場合は血糖自己測定を行い、その血糖値に応じた補食を摂ってもらうようにします。しかし、その判断が自分で出来にくい場合は、早く医師もしくはメディカルスタッフに相談しましょう。意識障害、けいれんなど重症の場合は、すぐに医師、看護師を呼びましょう。

⑥　独りぼっちになっているキャンパーを見つけた場合は、自らが話し相手になり、同じ年齢のキャンパーや面倒見のいいキャンパーをみつけ、キャンパーの輪の中に誘ってあげましょう。

⑦　血糖自己測定やインスリン注射に関しては、キャンパーとともに一緒に同じ場所で行い、先輩としてのモデルになってみましょう。

⑧　もし、一人で血糖自己測定やインスリン注射のできないキャンパーがいたら、一緒に行うなどして、注射のやり方のコツや初めて自分が一人で打てたときの経験などを伝えましょう。

⑨　自由時間は、キャンパーに自分の経験を伝える格好の場になります。キャンプ中に気になったキャンパーに声をかけ、キャンパーの悩みや相談事を聞き出し、その内容に合わせて自らの経験を話してあげるのもいいでしょう。

⑩　キャンパー同士のもめごとでは、お互いの言い分を聞き、仲直りへの支援をしましょう。

3）　学生・一般スタッフ　ガイドライン

＜学生・一般スタッフの役割＞

①　キャンパーの安全を守る

②　行事の運営、進行をサポートする

③　医療スタッフの活動をサポートする

小児糖尿病キャンプ参加に当たっては、準備段階から参加していただくことになります。1 型糖尿病に関する学習をして、キャンプの内容について把握しましょう。それぞれのキャンプ主催者が事前に勉強会や準備会などを開催すると思いますので、必ず参加して. 知識を身につけるとともに、参加キャンパーに関する情報収集もしておきましょう。

キャンプのすべての責任は主催者にあります。主催者への報告、連絡、相談は大切です。主催者との連携を十分にして、チームでキャンパーと向き合いましょう。 医療に関することは、スタッフとしての範囲を超えてはいけません。スムーズな行事の運営、進行のために必要な準備が整うように考え、行動できるようにしましょう。

＜学生・一般スタッフのキャンパーへの接し方＞

① キャンパーひとりひとりの名前を覚え、できるだけキャンパーの情報（参加目的、病歴、使っているインスリンの種類、キャンプの参加回数など）を把握してください。

② 言葉遣いは、命令口調にならず友達感覚で話しましょう。

③ キャンパーひとりひとりの行動をよく観察し、安全に対する注意をしましょう。

④ 独りぼっちになっているキャンパーを見つけた場合は、自らが話し相手になり、同じ年齢のキャンパーや面倒見のいいキャンパーを見つけ、キャンパーの輪の中に誘導してあげましょう。

⑤ 一人でインスリン注射や血糖自己測定ができないキャンパーを見つけたら、そのことを医師、メディカルスタッフに知らせてください。

⑥ 自由時間には、キャンプ中に気になったキャンパーに自ら声をかけ、キャンパーの悩みや相談に助言を行い、必要ならスタッフに相談しましょう。

⑦ キャンパー同士が喧嘩などを起こしたときには、お互いの言い分を聞き、仲直りへの支援をしましょう。

⑧ 過剰な世話や支援にならないように注意して、キャンパーの自立への手伝いができるようにしましょう。

⑨ キャンパーに対して、興味本位で必要以上に病気のことを聞いたりするのは控えましょう。キャンパーは当然のこととして日々実践していることです。

4）医療関連企業スタッフ　ガイドライン

＜医療関連企業スタッフの役割＞

① キャンパーの安全を守る

② 行事の運営、進行をサポートする

③ 医療機器や機材の適正使用への助言を行う

④ 社会人としての役割モデルであり、キャンパーの助言者となる

医療関連企業スタッフは、小児糖尿病キャンプを支える重要なボランティアスタッフとしてキャンパーから認識されています。第三者的な視点、社会的で広い見識に基づくキャンプに対する意見などを、主催者は期待しています。積極的な情報交換をお願いします。また、キャンパーにとって人生の先輩、頼れる「大人」としてご参加ください。

＜医療関連企業スタッフのキャンパーへの接し方＞

① 小児糖尿病キャンプの主役はキャンパーですので、キャンパーのためのサポート役に徹してください。しかし、過剰な支援や世話にはならないようにしてください。

② キャンパーは、血糖測定器やインスリン注入器のユーザーです。彼らが持つ機器への要望を汲み取り、製品改良に活かせるように関わってみたり、キャンパーが正しく機器を使用しているかなどを確認してください。しかし、決して自社製品の営業は行わないようお願いします。

③ できるだけキャンパーたちと一緒に行事に参加するなどして、活動してください。

④ まれにキャンパーが、皆さんに対して度が過ぎる態度を取ることがあるかもしれません。そんな時は遠慮せず、厳しい対応をしてください。

⑤ 医療関連企業スタッフだけで固まり過ぎないように心掛けてください。

⑥ キャンパーにインスリン注射の単位の変更を促すことや、血糖自己測定をしてあげることはできませんのでご注意ください。

5） 医療スタッフ　ガイドライン

＜医療スタッフとしての役割＞

① キャンプにおける医療的責任者、各部門の責任者となる

② キャンパー、キャンプスタッフの安全と健康管理の主体となる

③ 各職種の専門分野別の機能を果たす

④ キャンパーの教育・指導・評価を行う

小児糖尿病キャンプを安全に実施するために必要不可欠なスタッフとして、それぞれの専門性を活かした役割が期待されます。キャンプの構成や日数、環境、行事内容、家族の参加などによってその果たす役割や責任が異なります。

病院での指導や対応と異なり、キャンプでは、成長を続けるキャンパーの自己管理技術の習得や自立の支援、安心や安全が確保できるように支援をしていきましょう。

キャンプは、内科医師、小児科医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、臨床心理士など、多様な職種が参加し、それぞれの専門分野を活かしたチーム医療のミニモデルという実践の場になります。他職種の医療スタッフや、キャンプ OB・OG、学生・一般スタッフ、医療関連企業スタッフとの情報交換を

緊密に行うようにしましょう。

＜医療スタッフのキャンパーへの接し方＞

① キャンプ中のキャンパーの管理や参加スタッフの健康管理において、それぞれの職種としての責任を担う立場となりますので、糖尿病に対する十分な理解が必要です。

② キャンパーの自立をサポートする役割であることを認識し、過剰な支援や指示は控えて、個々の成長発達段階や能力に応じた助言をしてください。

③ キャンパーとの共同生活は、病院ではみられないキャンパーの日常生活の一部を理解する機会と捉え、キャンパーを見守ってください。

④ キャンパーが誤った理解をしていることに気付いた時は、正しい情報を伝え、正しい方向に導くように接してください。

⑤ キャンパーとはよく話し合うことを心掛け、キャンパーが十分納得したうえで物事を進められるように支援してください。

⑥ キャンパーひとりひとりの名前をしっかり覚え、そのキャンパーの参加目的、病歴、使っているインスリンの種類、キャンプの参加回数などを把握して接してください。

⑦ キャンプ中は自己中心的な行動は慎み、キャンパーのサポート役に徹するよう心掛けてください。

⑧ キャンプに必要な物品の所在や管理状況などを把握し、緊急時にスムーズな対応ができるように準備してください。

小児糖尿病キャンプの安全管理の標準化

安全で効果的なキャンプ運営のための基準

目的：

日本糖尿病協会は、小児糖尿病キャンプにおける安全の確保は、キャンプを成功させる上で最も基礎的な要素であると考えています。ここに、キャンプの安全を確保するため最低限必要と思われる事項をまとめました。それぞれのキャンプの実情に合わせて適用していただき、参加するキャンパーに最大の効果をもたらすようご配慮いただけると幸いです。

公益社団法人日本糖尿病協会
ペイシェントサポート委員会

安全確保の要素：各キャンプに実施していただきたい７項目

１．キャンプ運営の主催者と組織構成が明示されている。

２．医療スタッフの確保とそれぞれの役割、職務内容が明示されている。

①医療の責任者としての医師が確保されている。
②キャンプ期間中は責任ある判断のできる医師が常駐している。
③看護師を含むキャンプ医療スタッフは緊急時対応を考慮した質、量の確保ができている。
④組織は実質的で機能的に活動できるものである。

３．緊急時に対応できる体制が構築されている。

①夜間管理体制
②緊急時対処
③救急薬品・物品の整備
④入院治療を要する場合に備えた受入れ病院、搬送手順等の整備
⑤家族への連絡方法を含めた緊急連絡網の整備
⑥活動記録の作成、整備
⑦有事（地震、津波）に備えた避難場所、避難手段の確認の徹底

４．キャンプ参加のスタッフ教育がおこなわれている。

５．キャンプ参加について、参加者の同意書の提出が行われていることが望ましい。

（同意書の作成が必要な背景）

・同意書をとる前提として、実施責任者には説明責任があることをご理解ください。この説明責任とは、「医療行為を行なう上での説明と同意」、「キャンプの実施に当たっての、実施者側の管理体制の説明と同意」の 2 点です。

・説明とは、医療者側の責任の明確化だけでなく、参加者に求めたい協力（参加者が負う義務）を実施者・参加者双方が確認することです。

・実施責任者には、「結果の予知義務」と「結果回避義務」があります。予知される結果に対して、キャンプ実施責任者はそれをどのように回避するかをまず決めて、それに基づく説明を参加者（保護者）にします。

・以上について実施者・参加者双方が確認した証明として、同意書をとります。

６．不測の事態に備えた傷害保険などへ加入している。

各キャンプで独自に入っても結構ですし、日本糖尿病協会でとりまとめるサマーキャンプ用の傷害保険を利用することもできます。

７．参加者全員が安全で健康に過ごせるよう配慮している。

・プログラムの内容は安全が確保され、無理のないものである。

・キャンプ前からの参加者の体調の確認を含めて感染症予防対策が取られている。

・キャンプ参加者全員の体調が定期的に確認され、医療の責任者がそれを把握している。

・体調がすぐれない参加者が発生した場合の対応手順が整えられている。

以上

・・・・・・・・・・・・・・・・メモ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

名　前